

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500194		
法人名	(株)サンシャインライフ		
事業所名	サンシャインプレミアム中津川グループホーム		
所在地	岐阜県中津川市駒場1666-3965		
自己評価作成日	令和6年8月28日	評価結果市町村受理日	令和6年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2191500194-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和6年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>緑に囲まれ環境の良いグループホームです。介護職員の都合でケアに関わるのではなく、利用者様の目線で、自分らしく楽しく過ごして頂ける様職員全員で、一人一人に合わせたケアを考え取り組んでいます。日中は、施設前の花を見て談笑したり、今までご自宅でされて見えた事として洗濯物干し、畳み、床のモップ掃除をして頂いたり、筋力低下の予防として体操等して一日を過ごしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の広大な敷地内には栗林があり、秋には栗拾いが楽しめる環境にある。エントランスから廊下、リビング等の共有空間等、ホーム全体が広々として明るく、自然素材のぬくもりのある造りとなっている。専用の携帯端末を活用し、職員は効率よく記録と情報の共有をしている。家族への情報提供もLINEを活用して行い、家族からも喜ばれている。浴槽は一般浴と機械浴があり、車いすの利用者も安心して入浴ができています。食事は調理専門の職員により、3食手作りし行事食も提供している。看護師を職員として配置し、協力医とも24時間連絡が取れる体制であり、本人・家族の安心に繋げている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議、ミーティングの時、全員で唱和して、意志の統一を図り、解決すべき問題点があった場合、理念に立ち還り解決策を考える様指導している。	全体会議で「サンシャイン憲章」や「行動指針」を唱和し、意識付けをしている。特に、行動指針12項目の中の「常にお客様の立場に立った目線、意識で真心を持ってきめ細やかなサービス提供に努めます」を目標に、日々実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染防止に努めながら、現在家族の面会を実施しています、日常的な交流も少しずつ行っていく予定	自治会に加入し、回覧板で地域の情報を得ている。昨年は、蛍の情報を区長から得て、利用者と同じく、ホームの栗林で利用者と拾った栗を近隣に配るなどしている。今後は感染対策を講じながら、更に地域交流を図っていきたく考えている。	新型コロナは「5類感染症」に移行したが、中津川市で陽性者が増加した時期があった為、交流が困難であった。今後、ホームでイベントを開催する際には、地域住民の参加を得るなど、交流に期待したい。
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染防止に心がけながら、5月、7月に開催し、お客様の普段の様子・健康等報告しています。	運営推進会議を隔月に開催し、行政・医師・民生児童委員・消防署長・区長・家族・法人代表が出席している。身体拘束についての報告やヒヤリハット・事故報告等も丁寧に記録に残しており、行事報告など、意見交換を行いながら、サービス向上に活かしている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等に、関わっていただき、意見をもらい必要時に、随時連絡、確認をしています。	運営推進会議に市職員の参加を得ており、介護保険制度の改正や補助金についての相談など、主に事務長が行なっている。また、福祉避難所としての連携などは、管理者が窓口に出向き協力関係を築いている。職員研修の案内も市から届いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての問題に取り組んでいます。また全体会議等で、職員・関係者の方々に現状等周知し身体拘束のないケアへの取り組みの大切さを厳守出来る様、取り組んでいます。	毎月の全体会議の中で「身体拘束について」話し合い、職員研修でも「身体拘束とは何か」を学び、共通理解を図っている。やむを得ず拘束が必要な場合は家族の同意を得て、出来るだけ短時間になるよう検討している。運営推進会議でも事業所の実情を報告している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待について学び、虐待の種類を熟知し、事業所内で見過ごされる事のない様、取り組んでいます。	虐待防止の指針を整備している。虐待についての理解をより深めるため、指針を基に様々な参考資料を使いながら虐待防止に取り組んでいる。また、虐待にあたる対応を無意識に行っていないか、チェックシートを活用して振り返りをするとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門職としてケアは理解しているが、お客様一人一人の背景・個性・今までの生活状況等理解してケアに当たれる様に支援事業等理解できる様に行きたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご家族様に全ての項目について説明し、了承を得た上で署名・捺印頂いている。また、質問・疑問には、誠意を持って対応している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の事での相談等連絡を取らせて頂いております。またご意見・ご要望は、その都度対応しています。	家族の面会は予約制とし、直接、意見を聞く機会としている。家族への「便り」や個別写真、予防接種の案内なども、新たにLINEでの発信を開始し、家族から喜ばれている。LINEの利用が困難な家族には郵送した上、電話で意見を聞いている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々変化する入居者様の状況やそれに合わせてのケアの方針等、現場職員の連絡・報告を元に、職員全員の意見を聞き取り、ミーティングの場でより良いケアを相談して決定している。	管理者は、毎月のスタッフミーティングや全体会議、普段の業務時間等に職員から意見を聞いている。今後は、個人面談も実施したいと考えている。技能実習生の受け入れも行っており、コミュニケーションを図りながら意見、要望を聞いている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	就業環境や勤務状況を見直しより働きやすい職場にするために整備につとめています。	産休・育休、有給、希望休の取得や、職員のワーク・ライフ・バランスに配慮した働き方ができるよう、職場環境を整えている。技能実習生には住まいを提供している。適切に休憩時間が取れるよう、職員休憩室がある。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には、その都度、適切な指導を行い能力向上を図っている、また個人のスキルアップに資格取得を進めている。	職員は、外部研修に参加し、定期的に内部研修でも学んでいる。外部研修を受講した職員は、伝達講師となり、他の職員のスキルアップをサポートしている。今後も、職員の資格取得に向けた法人のバックアップ体制を更に見直す予定としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム部会等、研修に参加し、知識・能力の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共にいろいろな日常の作業(洗濯干し等)を行いながら、入居者同士の社会性を見守り、良い関係性を気づける様にお手伝いしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活をともに過ごす中で、聞き取った希望・意向・聞き取れなくても表情で感じた事等、入居者様の思いを職員で把握・共有し、どのようにして実現して行くか、職員間で考え実行する様に努めている。	日々の関わりの中で聞いた利用者の思いや意向を、専用の携帯端末や申し送りノートに記録し、情報を共有している。誕生会は、本人の食べたい物を聞いて提供している。夜間のみ、希望する利用者には、居室にポータブルトイレを設置している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族のご要望や変化に応じ臨機応変に見直して、モニタリング等を行い、優先すべき事を考えて作成しています。	家族の希望や要望を文書にて受け取り、介護計画に反映できるようにしている。計画の見直しの際には、ケアマネジャーが利用者の担当者から情報を詳細に聞いたり、医師、看護師等の意見も取り入れている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来るだけ本人様の言葉で、起こった出来事やそれにより気づいた事を記入し、良いケアの方向性を探って、計画書の見直しに繋がっております。	日々、利用者の様子を申し送りノートや携帯端末に記録している。すぐに全員に伝えたい事項がある時は、集合して申し送るより、携帯端末に特記欄を設けて入力、全職員に送信する等、効率の良い伝達方法で情報共有を行っている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、ご家族のご要望に、出来る限り対応出来る様、職員間で相談、良い方法で、対応出来る様取り組んでいます。	利用者の希望で買い物に出かけたい時は、個別対応で支援をしている。また、家族と一緒に、敷地内の栗畑で栗拾いを楽しめるよう支援している。事業所でも新聞は取っているが、新聞を読むことが習慣となっている利用者には、個別購読できるよう対応している。	

岐阜県 サンシャインプレミアム中津川グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との関係性をより良く出来る様、散歩等に出掛ける機会、ふれあいを増やして行ける様取り組みたい。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師により、定期的に往診を依頼している。医師との連携もとれ適切な医療が受けられている。	かかりつけ医については、家族・利用者の希望を聞いている。現在は全利用者が協力医をかかりつけ医とし、月2回の往診を受け、必要に応じて歯科医の訪問も受けている。専門医へは家族同行にて受診とし、緊急時は職員が付き添っている。医師とは、24時間連絡が取れる体制となっている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院関係者との情報交換、相談等を行い、本人様、ご家族様、病院関係者との早期退院に向けてよく話し合い支援していきたい。	入退院時の病院との連絡は主にケアマネジャーが対応している。利用者の状態説明は看護師が確認している。コロナ感染症対策もあり、入院時の面会や退院カンファレンスの参加は、なかなかできない状況ではあるが、病院との関係作りに努めている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と良く話し合いを行い、状態に変化等合った場合、主治医や、ご家族様との連携を密にして対応している。	看取り指針を整備し、契約時に看取りに関する説明をしている。利用者の状態変化があった場合は、その都度、家族に説明し、本人・家族の意向に沿って支援をしている。看護師による看取り研修を行い、職員の心のケアにも取り組んでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員に対して、急変・事故発生時の初対応・応急処置の研修を受けられる様計画している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の元、年二回消防訓練を行っている。また地震・水害等の災害を想定した訓練を行って行きたい。	年2回、災害訓練を実施している。運営推進会議の際に、消防署長による防災に関する指導も受けている。BCPを策定し運営規定への記載も完了している。水・食料等の備蓄品整備と、担当者による点検を行っている。現在、防災頭巾の準備を検討している。	昨今の大雨洪水等の災害について、家族から心配する声も多い。事業所内での災害対策や備蓄品の整備状況、災害時の取り組みについて、家族への報告方法を工夫し、安心に繋がられたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しき仲にも礼儀ありと言う事を自覚し、入居者様の尊厳を守り、個人のプライバシーを侵害する事の無い様に対応する様指導している。	日々、利用者の人格を尊重し、羞恥心に配慮した声かけと対応を心掛けている。接遇やプライバシー保護に関する研修も行っている。特に外部に提出する書類は、個人情報の取り扱いを適切に行なっている。利用者の希望によっては、入浴の同性介助にも対応している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話等の中から、思いを汲み取る視線で関わって行くよう支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合った生活が事を理解した上で、その都度確認し、要望にそった支援に努めている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染が、落ち着いてきているが、油断出来ないで、まだ片付け等、一緒におこなっていない。	調理専門の職員が、法人の管理栄養士が立てた献立をもとに、3食共、手作りにて提供している。正月のおせち料理やクリスマス会、誕生日会等の行事食も楽しみに繋げている。秋の栗きんとん作りも、職員と利用者として役割り分担しながら、一緒に楽しんでいる。次回は、五平餅作りを予定している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立を元に畑で採れた野菜を使ってメニューに取り入れていきます。また食事量、水分量を掌握して、申し送り職員全員が把握し、好みの物を提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア・義歯の手入れ、定期的な歯科医の往診を受けて維持できる様支援している。	毎食後の口腔ケアは、ホール内にある洗面台で行い、個々の状態に合わせて歯間ブラシを使うなど、丁寧にケアをしている。夜間の義歯保管は個別に対応し、管理を行っている。必要に応じて歯科衛生士の訪問もある。	

岐阜県 サンシャインプレミアム中津川グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄は、失敗を減らす為、トイレへの誘導時間等を考えたり、夜間オムツが必要なお客様も、なるべく日中は、紙パンツに替えてトイレ誘導し、自信を無くさぬ様声掛けも注意している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	便汚染があった時、優先的に入浴して頂いている。お客様が、希望されない時は、無理に入って頂かずに、曜日等変更して、入浴して頂いている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	電気・エアコンの温度・衣服の調整を行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、看護師、職員と連携し報告確認を行っている。お客様の体調の変化は、職員から看護師へ連絡後主治医へ報告している。	薬のセットは薬剤師が行い、服薬支援は看護師による確認と職員によるダブルチェックで誤薬防止に努めている。処方の変更があった時は、看護師が確認し職員と情報共有している。体調に変化があった場合は看護師に相談し、主治医に連絡をしている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の生活歴を、職員間で把握し、一人一人の役割、楽しみ等、職員間で相談しながら支援に努めている。	毎日の献立をボードに書く事や、一緒に野菜作りをするなど、利用者が役割りとして出来るよう支援している。また、音楽が好きで絶対音感を持つ利用者が、キーボードの異音に気づく事もあり、個々の能力維持と自信に繋がるよう支え、趣味を継続できるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染拡大防止のため、施設玄関先で庭に植えてある花や景色を見ながら談笑を楽しんでいる。またたまに施設の回りを散歩等行っている。	4月には感染症対策を講じた上で、花見に行ったが、7・8月は周辺でコロナ感染症が拡大し、外出は控えていた。現在は、家族との外食や外泊は可能とし、スーパーへの買い物支援も行っている。秋には紅葉見学を予定している。	

岐阜県 サンシャインプレミアム中津川グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	感染拡大防止の為、あまり外出して、買い物等は、出来ていません。お預かりしている金銭からご家族様に了承を得てご自分で買い物出来る様したいと考えています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、本人様希望されれば対応する様にしています。またメール等を活用して、写真等を送っています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様にとって広だけの殺風景にならない様に季節の花をテーブルに飾ったり、一緒にお客様と季節の作品を作り飾ったりしています。	自然素材のぬくもりある共有空間は、天井が高く廊下も広い。折り紙が得意な利用者の千羽鶴がホールに飾られている。ホーム全体が明るく、開放感があり、居室の窓も大きく、十分な広さがある。冬は床暖房設備により、温かく過ごすことができ、トイレや浴室も広く、介助がしやすい設備が整っている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	当施設は、広い共有空間が建物の真ん中に位置している、共有空間を囲む様に、居室があるが、もう少し工夫したいと考えている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様、家族様で使い慣れた椅子、テーブル等ご自由にお持ち頂いている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉に分かりやすく「トイレ」の表示をしたり、居室が分からなくなる方に、ドア扉に名前を表示したりしている。		